

柏崎刈羽原発6号機 制御棒に重大トラブル発生！ 県民置き去りの再稼働直後 6号機は原子炉停止に 国と東電は再稼働を断念せよ！

制御棒の不具合は安全を揺るがす重大問題。
東電に原発を運転する資格はあるのか？
原子力規制委員会はしっかり役割を果たせ！

原発事故を防ぐには「止める、冷やす、閉じ込める」ことが必要とされますが、最初の「止める」のは制御棒です。6号機の制御棒を巡っては、昨年6月と8月に制御棒が引つかかって抜けないというトラブルが発生。専門家はその時点で設計に問題があると指摘し警告を発していました。しかし、徹底検査をせず、1月17日には制御棒試験中に警報が出ないというトラブルが起き、設定ミスによるものだったことが判明。それも運転開始時から30年間もの間、東電はもとより原子力規制委員会も見逃してきたことは重大です。1月21日には設定を直したからと、予定より1日遅れただけで大急ぎで再稼働を実施。しかし、再稼働からわずか5時間半後の22日に制御棒引き抜き中に警報が鳴るトラブル発生という事態になり、原子炉が停止となりました。



「想定内」と強がる東電。未然に対策すべき。
立地自治体の首長はなぜ東電を追及しない？

東電の小早川社長は「さまざまトラブルもあり得ると準備してきた」と釈明。1月21日に空気漏れが見つかった1号機2号機排気筒雨水排水管は錆びていて、他の設備や部品の腐食等も懸念される状況です。原発を稼働する前に、総点検を徹底して行い、万全を期すことが当然ではないでしょうか。

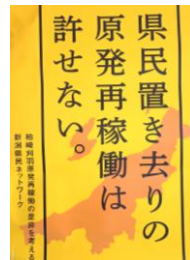
また、小早川社長から再稼働停止の報告を受けた知事、柏崎市長、刈羽村長は再稼働を停止したことを「的確だった」「信頼できる」などと評価し激励。東電を厳しく追及すべきです。

大雪で、事故が起きたら逃げられないと実感!!

「柏崎刈羽原発の是非を考える
県民ネットワーク」が再稼働断
念を求める声明を発表しました。



1月23日に、トラブルを軽視して再稼働を強行しようとした東電と原子炉の起動を認めない原子力規制委に抗議。「プラント全体に予期しない問題が潜んでいる可能性もある。このような状態で再稼働はあり得ない」として、再稼働断念を求めました。
*命よりも利益を優先する国と東電に抗議し、再稼働をストップさせましょう！



1/20 再稼働抗議のスタンディング、リレートーク

東京電力福島原発事故から15年
まるでフクシマがなかったかのように、新潟県民の意思を無視して、国と東京電力は強引に柏崎刈羽原発を再稼働させました。しかし、すぐに重大トラブルが発生して停止。フクシマと同じ過酷事故が起きる可能性が現実のものになっています。

◆福島事故を忘れない！
◆原発再稼働をやめさせよう！
3月11日（水）午後2時
アオーレ前に集まりましょう

長岡出身の写真家 しまくらまさし
写真展 「フクシマ」 同時開催

【詳細は別紙チラシ（両面）をご覧ください】

2月のアオーレ前宣伝行動は 2月11日（水・休）12時～13時

※県民ネットワークの呼掛けで、考える会・長岡と共同

原発ゼロ長岡市民ネットニュース
第166号 2026年2月1日発行

連絡先 広井洋子 長岡市寿2-5-15
電話・FAX 0258-24-2870
佐藤 090-4925-3707